2018年3月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第494号

地方小出版 情報誌 アクセス

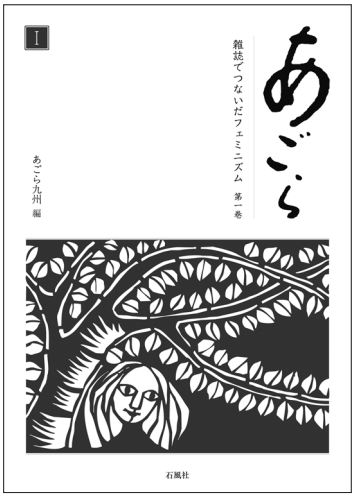
毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

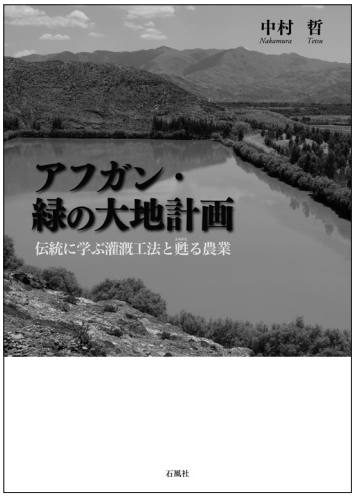
梓会出版文化賞受賞挨拶 ――― ///★☆★

水俣病問題とアフガニスタン

石風社 代表　福元満治



【あごら　雑誌でつないだフェミニズム　第1巻】あごら九州編／2016年12月発行／ISBNコード978-4-88344-266-9／税込価格2,700円



【アフガン・緑の大地計画　伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業】中村哲著／2017年6月発行／ISBNコード978-4-88344-271-3／税込価格2,484円

この度は、梓会出版文化賞を頂くことになり大変有り難く存じます。

正直に申し上げると、今回の受賞は、実力以上の評価だと恐縮しております。

ともあれ、これまで小社を支えて下さった関係者の皆さん、そして梓会の方々には深く感謝しております。

ひとりで始める

小社は、一九八一年の秋に福岡市の布団屋の二階で、私が一人で始めましたが、現在でも総勢三人の小さな出版社です。創業三十七年になりますが、これまでよくぞ潰れずに来たというのが実感です。ついでにいうと、福岡には十数社の出版社がありますが、今のところ潰れることなく、みなそれぞれに特色を持って頑張っております。

アフガニスタン

今回の受賞の理由に「地域に根ざした出版活動」との評価がありましたが、実は小社では、地元福岡の書籍をあまり出しておりません。一番多く出しているのが、アフガニスタンに関するものです。なぜ、アフガニスタンの本が多いかと申しますと、三十年前のことですが、私が中村哲医師のエッセイを読んで、氏に嫉妬したからです。何に嫉妬したかと言うと、中村医師のアフガン難民やハンセン病の患者さんに対する「関係の深さ」に嫉妬したのです。

その時、久々に頭に血が上りまして、この人の本を是が非でも出したいと思いました。ただ、この人の本を出したら、著者と出版者との関係では終われないだろうな、という予感がありました。結果として、その後、パキスタン・アフガニスタンにも二十回ほど行くことになり、今では中村さんの事業を支える会の事務局長までやることになりまして、時にはそちらの方が忙しくて、本屋なのに本業が出来ないということもありました。

水俣病問題

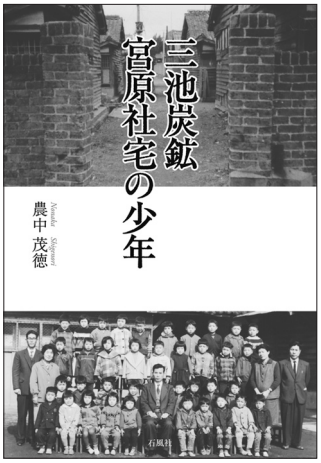
さらに個人的なことになりますが、そもそも私が編集者になったのは、一九七〇年に、熊本在住の思想史家・渡辺京二さんと作家の石牟礼道子さんに出会ったことにあります。私はいわゆる全共闘世代でして、ご多分に漏れずあの時代の騒動に関わりました。七〇年というのは、全共闘運動としてはすでに終末期で、私も無為な日々を過ごしていたのですが、あるとき誘われて、水俣病を告発する会の会議に出席しました。

当時告発する会は、水俣病の患者さんたちが国に対して起こした裁判を支援していたのですが、裁判には訴えず旧厚生省補償処理委員会に原因企業のチッソとの間を調停してもらおうという「一任派」といわれる患者さんたちのグループがあり、七〇年の五月二五日に、死者に対して四百万円という理不尽で低額の調停金額が提示されることになっていました。その調停に対して「全存在をかけて阻止する」ということが、その水俣病を告発する会の会議で議論されていたのです。

そこで私は余計なことを口走ったのです。「全存在をかけるなんて出来ませんよ」と。すると、間髪を入れず怒鳴り返されました。「小賢しいことを言うな！　これは浪花節だ！」と、それをおっしゃったのが、後に「逝きし世の面影」を書かれる思想史家の渡辺京二さんだったわけです。それで、行

▼石風社の刊行物

【アウシュヴィッツのコーヒー　コーヒーが映す総力戦の世界】臼井隆一郎著／2016年10月発行／ISBNコード978-4-88344-269-0／税込価格2,700円



【三池炭鉱宮原社宅の少年】農中茂徳著／2016年6月発行／ISBNコード978-4-88344-265-2／税込価格1,944円

【熊本地震　明日のための記録】毎日新聞西部本社著／2017年3月発行／ISBNコード978-4-88344-272-0／税込価格1,944円

きがかり上、（私の人生では、この行きがかり上というのが多いのですが）、私も旧厚生省に突入して逮捕されることになりました。

それがなぜ編集者になったのかといいますと。その三年後渡辺さん、石牟礼さん、松浦豊敏さんの三人の責任編集で「暗河（くらごう）」という雑誌を出すことになり、私はその編集を手伝うことで、編集のイロハを覚えることになった次第です。そしてその雑誌の版元を引き受けていたのが、福岡市の葦書房で、私は葦書房の編集者として七年半働かせてもらいました。

葦書房ではろくな仕事もせず、社長の久本さんと酒ばかり飲んでおりました。出張旅費の精算も出来ないような社員で、かってに煮詰まって八一年の九月に退社して、他に出来ることもないので、志も見通しもなく石風社を立ち上げたという次第です。こんな立派な賞を頂きながら志の低いことしか言えずに申し訳ありません。

人の思考にかかわること

私は、活版から写植、そしてデジタルと印刷技術の変遷を体験してきた最後の世代かと思いますが、少しだけ理屈を言わせて頂くと、大切なことは人間の身体性と人との縁だと考えております。できれば、情報ではなく人間の思考に関わる書籍を出して行ければと考えております。

本日は、ありがとうございました。

＊

（ふくもと　みつじ／石風社代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率８%）表示です。

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。
機会がございましたらぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。
http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html
＊検索サイトで「地方・小出版流通センター」とキーワード検索してください。

『屋根の上が好きな兄と私　－宮沢賢治妹・岩田シゲ回想録』●岩田シゲほか著

今年は宮沢賢治の没後85年にあたり、賢治の父・政次郎が息子を思いやる姿を描いた門井慶喜氏の「銀河鉄道の父」が第158回直木賞を受賞するなど、今なお国民的作家は注目を浴びている。賢治の妹と言えば夭折した二歳年下のトシが浮かぶが、五歳年下の次妹シゲの存在も忘れてはならない。シゲは岩田豊蔵と結婚し、1987年に86歳で亡くなったが、70歳を過ぎた頃から兄の思い出などを書き記し始めていた。本書は豊蔵の三十三回忌を機に孫たちに読んでもらおうと次男夫婦が身近な親族に配布するために作った冊子を書籍化したもの。タイトル通り、いくら注意されても賢治は屋根に上るのが大好きで、星を眺めていたという。また今までそれほど具体的に語られていなかった母イチの人物像が生き生きと描かれ、さらに臨終間近のトシに食べさせた雨雪を椀に受けたのはシゲだったという新事実も光る。当時の生活を知る資料としても貴重で、妹ならではの愛に満ちた回想録となっている。

◆972円・Ａ５判・78頁・**蒼丘書林**・東京・2017/12刊・ISBN9784915442339

『越えてくる者、迎えいれる者　－脱北作家・韓国作家共同小説集』●ト・ミョンハクほか著

2015年に韓国で刊行された、脱北作家6人と韓国作家7人の共同小説集である。脱北作家の作品は、国の大きな力に翻弄されて破壊される夫婦生活、不倫、堕胎、社会・経済の混乱と闇取引、飢えから山野草を口にして命を落とす浮浪児、定着地の韓国社会に適応できない日常と人間模様をテーマにする。いずれも北朝鮮体制への強い批判をベースにするが、過激な内部告発やプロパガンダというのではなく、記録文学としての味わいを持つ。一方、韓国作家の作品は、脱北者を迎え入れた韓国の立場から、韓国社会に馴染めず息をひそめるように暮らす脱北者の生活、朝鮮戦争で南北に生き別れた夫を待ち続けて最期を迎える妻、在日コリアンで北朝鮮帰国事業に勧誘されるが結局は脱北と時代に弄ばれる男、北朝鮮に留まって社会に関心を向けず山中に質素に暮らす実在の詩人の姿を描く。韓国の人々の無関心や無理解など、迎え入れる側にも多くの困惑や苦悩が伴うことが滲み出る。

◆1490円・四六判・286頁・**アジアプレスインターナショナル出版部**・大阪・2017/12刊・ISBN9784904399132

『死民と日常　－私の水俣病闘争』●渡辺京二著

近代がもたらした諸悪を追及してきた著者・渡辺京二（毎日出版文化賞、和辻哲郎賞・大佛次郎賞等受賞者）が、報告者としてではなく運動者としてかかわった水俣病闘争を語る。(株)チッソの水銀垂れ流しによって起きた水俣病に対する闘いは、それまでの反体制運動とはまったく位相を異にする、それらを越える闘いだった。近代社会の論理では動かない下層生活民すなわち水俣病患者らによる自立した闘いだった。見舞金、補償金、裁判。そして患者川本氏らによる自主交渉闘争へと展開・飛躍していった。ここに近代のルールにはのらない患者らの闘いの本質が潜む。チッソ水俣工場前座り込み、東京本社占拠・座り込みによる自主交渉を、「義によって助太刀いたす」という言葉どおりに、著者・渡辺らはあくまでも支援者として担い続けた。本書は、1970年から73年にかけて、この自主交渉闘争の生々しくも詳しい経過と、著者内部の気持ちが書かれており、読む者にひしひしと迫るものがある。

◆2484円・四六判・281頁・**弦書房**・福岡・2017/11刊・ISBN9784863291461

『おしえてカラスさん』●おしえて編集室著

ゴミ袋を破り、生ゴミを散らかし、追い払うと襲って来る迷惑な鳥。そんなイメージで捉えられているカラスだが、実は誤解されていることが多い。そもそも毎日大量に出る生ゴミや残飯がカラスの食料に打ってつけであり、日本の街がカラスにとって暮らしやすい環境となっている。他でもない、私たち自身がカラスを養っているのだ。それにカラスはとても臆病で、人が不用意に卵や雛のいる巣に近づかない限り、襲って来ることはない。本来カラスにはいくつかの種類があり、それぞれに生活圏が異なり、特徴がある。日本で見かけるのは基本的にハシブトガラスとハシボソガラス。その二種を中心にカラスに関する素朴な疑問にわかりやすく答えている。鳥類は紫外線も見えるため、紫外線をカットする顔料を使用して黄色いゴミ袋を開発し、中身をわからなくさせているなどの科学的な情報もある。水彩画タッチのイラストに心がなごみ、カラスのイメージも変わってくるはず。

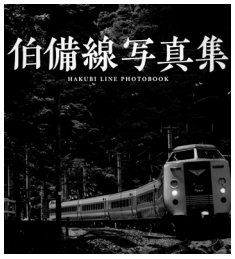
◆1728円・A5判・109頁・**ヴィッセン出版**・京都・2017/11刊・ISBN9784908869037

『ドイツ観念論物語　－カントとヘーゲルの哲学』●久田健吉著

もともとヘーゲリアンである著者は自身が住む知多の地域で「知多の哲学者たち」と銘打った哲学講座を開講しているが、そこでは以下のようなスローガンをかかげているという。…①哲学とは理性の心、そは隣人愛の実践②哲学とは先人の知恵を学び、自らを鍛える道③感動するところに隣人愛あり。深く味わうようにしよう…純朴とも言えるこの理念は高校教師時代の著者の苦難の経験から生まれたものだ。この理念を自身が拠ってきたカント、ヘーゲルの思想とすり合わせるという志向で講座で話した内容が本書の元になっている。その「隣人愛」の理念にふさわしく、本書はカントの「道徳律」からヘーゲルの「人倫」へと至る道徳思想を中心に辿っており、それらを独自に解釈しまた自身の理念と重ね合わせる。著者の面目躍如たるのは、通常ヘーゲル読者が止揚という言葉を使うはずのところで、「陶冶」という道徳思想に寄った言葉を使っているところである。この「陶冶」こそは著者のドイツ観念論理解の要であり、その哲学理念の核心となる言葉である。

◆1080円・A5判・127頁・**ほっとブックス新栄**・愛知・2017/9刊・ISBN9784903036298

『伯備線写真集』●片岡大編著



伯耆国（鳥取県）伯耆大山駅と備中国（岡山県）倉敷駅を結ぶ路線、それがJR西日本伯備線。その写真集が登場です。伯耆大山駅は名峰大山の麓、本書の中でも季節ごとに優美な姿を見せてくれます。列車はそこから南へ、中国山地を越えるべく鳥取では日野川、峠を越えて岡山では高梁川の谷に沿って山中を走ります。深山幽谷に加え冬には雪と厳しい自然も伯備線の景色のひとつです。それでも現在は山陰と山陽を結ぶメインルート。特急「やくも」・「サンライズ出雲」が日々行き交います。特に「やくも」は懐かしい国鉄スタイルの381系がいまだ健在。美しい自然の中を走る勇姿は見どころのひとつです。また貨物列車も伯備線では活躍中。年代モノの電気機関車が長大な貨車を率いて山越えに挑むのも伯備線ならではです。巻末には特急や貨物列車の解説もあります。短い編成の普通列車が走る時にはのどかな顔も見せますが、ローカル線とはひと味違う幹線の魅力を堪能できる写真集です。

◆2160円・240mm×252mm判・108頁・**今井出版**・鳥取・2017/11刊・ISBN9784866110707

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2018年1月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**季刊　メタポゾン**　第１１号　大西　赤人編　Ａ５　312頁　２１６０円　寿郎社［北海道］　978-4-909281-06-7　17/12

◆**ゆきのまち通信**　１７４　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　50頁　５００円　企画集団ぷりずむ［青森］　978-4-503-21363-1　18/01

◆**歴史春秋**　第８６号　会津史学会編　Ａ５　203頁　２４００円　歴史春秋社［福島］　978-4-503-21364-8　17/10

◆**会津人群像**　Ｎｏ．３６　阿部　隆一編　Ｂ５　246頁　１９４４円　歴史春秋社［福島］　978-4-89757-918-4　18/01

◆**ＳＰＲＩＤＥ**　ｖｏｌ．１９　２０１８年３月号　渡辺　直明編　Ａ４　95頁　７３０円　下野新聞社［栃木］　978-4-88286-661-9　18/02

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４５７　２０１８年１月号　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-905457-89-3　18/01

◆**響き合う街で**　Ｎｏ．８３　２０１８年1月号　やどかり出版編　Ｂ５　66頁　１２９６円　やどかり出版［埼玉］　978-4-503-21380-8　18/01

◆**子どもと昔話**　Ｎｏ．７４　小澤　俊夫編　Ａ５　79頁　８５３円　小澤昔ばなし研究所［神奈川］　978-4-902875-85-0　18/01

◆**かまくら春秋**　Ｎｏ．５７０　伊藤　玄二郎編　Ｂ６　83頁　３２０円　かまくら春秋社［神奈川］　978-4-7740-0735-9　17/10

◆**道**　Ｎｏ．１９５　木村　郁子編　Ａ４　74頁　１２３４円　どう出版［神奈川］　978-4-904464-86-1　18/01

◆**くらしと教育をつなぐ　Ｗｅ**　Ｎｏ．２１２　２０１８年２／３月号　中村　泰子編　稲邑　恭子編　Ａ５　80頁　８６４円　フェミックス［神奈川］　978-4-903579-81-8　18/02

◆**児童文芸**　２０１８年２－３月号　高橋　うらら編　Ａ５　112頁　８６４円　あるまじろ書房［東京］　978-4-904387-11-5　18/02

◆**アーカイブズ学研究**　Ｎｏ．２７　日本アーカイブズ学会編　Ａ４　157頁　２７００円　岩田書院［東京］　978-4-503-21382-2　17/12

◆**日本宗教文化史研究**　第４２号　日本宗教文化史学会編　Ａ５　114頁　２９１６円　岩田書院［東京］　978-4-503-21383-9　17/11

◆**仏事**　Ｎｏ．２０９　２０１８年２月号　奥村　昇編　Ａ４　92頁　１６２０円　鎌倉新書［東京］　978-4-503-21388-4　18/02

◆**月刊住職**　Ｎｏ．２３０　２０１８年1月号　矢澤　澄道編　Ａ５　203頁　１４０４円　興山舎［東京］　978-4-908027-45-1　18/01

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５６２　２０１８年2月号　片岡　輝編　Ａ５　47頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］　978-4-503-21389-1　18/02

◆**子どもと本**　第１５２号　子ども文庫の会編　Ａ５　52頁　６３７円　子ども文庫の会［東京］　978-4-906075-56-0　18/01

◆**シネ・フロント**　Ｎｏ．４００　浜田　佳代子編　Ｂ５　82頁　７５６円　シネ・フロント社［東京］　978-4-503-21379-2　18/01

◆**東京かわら版**　Ｎｏ．５３３　２０１８年２月号　佐藤　友美編　204mm×108mm　158頁　５００円　東京かわら版［東京］　978-4-503-21387-7　18/01

◆**こどもとしょかん**　第１５６号　張替　惠子編　Ａ５　31頁　７６７円　東京子ども図書館［東京］　978-4-503-21381-5　18/01

◆**俳句四季**　Ｎｏ．４８６　２０１８年２月号　西井　洋子編

売行良好書　期間：2018年1月15日～2月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『大谷翔平　挑戦』1404円・岩手日報社　(2)『屋根の上が好きな兄と私』972円・蒼丘書林　(3)『こんにちは』1944円・ナナロク社　(4)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(5)『反戦映画からの声』2052円・弦書房　(6)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(7)『いっしょに食べよう』1728円・木星舎　(8)『西郷どん！まるごと絵本』1728円・燦燦社　(9)『北前船寄港地ガイド』2052円・無明舎出版　(10)『精神障害とともに』1512円・ラグーナ出版　(11)『西南戦争　民衆の記』2376円・弦書房　(12)『そのまま食べる作りおき』1296円・ベターホーム出版局　(13)『日本の海岸植物図鑑』12960円・トンボ出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４４』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『短歌タイムカプセル』1620円・書肆侃侃房　(3)『玄関の覗き穴から差してくる光のように生まれたはずだ』1512円・ナナロク社　(4)『本の雑誌　４１７号』720円・本の雑誌社　(5)『東京かわら版　２月号』500円・東京かわら版　(6)『生頼範義展　ＴＨＥ ＩＬＬＵＳＴＲＡＴＯＲ』2500円・ヴィッセン出版　(7)『埼玉の城』2700円・まつやま書房　(8)『生頼範義２』4104円・ヴィッセン出版　(9)『こんにちは』1944円・ナナロク社　(10)『山梨東部の山登山詳細図　東編』972円・吉備人出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『短歌タイムカプセル』1620円・書肆侃侃房　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『山梨東部の山登山詳細図（東編）権現山・扇山・倉岳山・高柄山』972円・吉備人出版　(4)『群馬県の名字』1620円・上毛新聞社　(5)『埼玉の城』2700円・まつやま書房　(6)『復興　熊本城　Ｖｏｌ．１　被害状況編　平成２９年度上半期まで』1080円・熊本日日新聞社　(7)『北海道の歴史がわかる本　増補版』1728円・亜璃西社　(8)『出雲大社　門前町の発展と住人の生活』1620円・今井出版　(9)『忘却の引揚げ史』2376円・弦書房　(10)『西郷どん！まるごと絵本』1728円・燦燦社

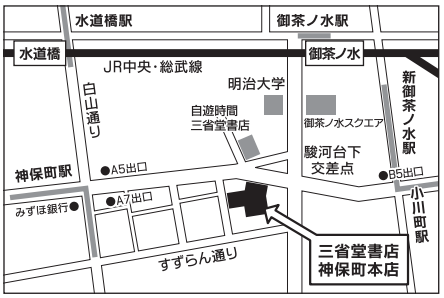
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼1月21日、思想家、評論家の**西部邁**さん（78）が亡くなったと報道されました。西部さん主催の雑誌【発言者】や【北の発言】は休刊となって久しいですが、当センターを通して書店流通していました。報道ではその死は「自裁死」と表現されていましたが、その事実を受け止めつつ、ご冥福をお祈りしたいと思います。
▼また水俣病を描いた【苦海浄土】で知られる作家の**石牟礼道子**さんが10日、90歳で亡くなったとのことです。【ここすぎて水の径】【花いちもんめ】【はにかみの国　石牟礼道子全詩集】等、近年の作品集を当センターでも取扱いさせていただいていました。謹んでご冥福をお祈りいたします。
▼南日本新聞で長期連載され、2017年度日本ジャーナリスト協会賞大賞（新聞・雑誌部門）を受賞した【精神障害とともに】が、昨年暮れに鹿児島の**ラグーナ出版**から単行本として刊行されました。鹿児島県は日本でもっとも人口に対するベッド数、入院患者数の割合が高く、20年以上の長期入院患者数がもっとも多いという統計があり、「鹿児島の報道機関こそ取り組むべきテーマではないか」という問題意識から、連載が始まったとのこと。先日全国紙の書評欄で取り上げられ、たくさんの反響がありました。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。